

# 第1回学校運営協議会

国分寺東小学校会議室にて

- 1 日時 平成31年4月24日(水)
- 2 参加者 学校運営協議会委員 □□□□ □□□□ □□□□ □□ □  
□□□□ □□□□ □□ □ (本校校長)  
※□□ □委員、□□□□委員は欠席
- 地域学校協働推進委員 □□□□
- 事務局 □□ □ (本校教頭) □□□□ (本校教務主任)

## 3 内容

- (1) 校長あいさつ並びに委嘱状交付
- (2) 自己紹介
- (3) 授業参観
- (4) 学校運営協議会議事

### ①会長、副会長選出

会長 □□ □ (留任) 副会長 □□□□□ (留任)

### ②平成31年度学校経営方針説明

- ・学校の現状認識として、概ね落ち着いた雰囲気の中で教育活動を展開できており、素直で優しい児童が育っている。新学習指導要領の全面実施を次年度に控え、下野市では、小中一貫教育も本格的にスタートした。これまでの学校経営方針を踏まえつつ、変えるべきところは変えていく。
- ・学校教育目標、めざす児童像、めざす学校像、めざす教師像の確認
- ・本年度の学校経営方針
  - ☆『人権尊重の教育』を基盤として、全職員・全児童担任という意識のもと、児童一人一人が尊重され、互いに認めあい、励ましあいながら、それぞれの個性や能力が発揮できる『居がいのある学校』づくりに努める。児童個々の個性等を踏まえながら、一人一人に寄り添える学校、認め合える学校づくりに取り組む。
  - ☆児童が『分かる喜び』『できる楽しさ』を味わうことのできる授業を展開し、個に応じたきめ細やかな指導を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。学校は“授業が勝負”。『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業を目指して、国語と算数を中心に授業研究に取り組む。
  - ☆教職員の個性や能力を生かし、温かい雰囲気の中にも切磋琢磨し、『教師力』を高め合う、子どもとともに歩み、ともに成長する教師集団をめざす。本校は、若手教員が多い。若さが強みとなるように、また、ベテランもそれに負けずに切磋琢磨するようしていきたい。風通しのよい職員室を心掛け、児童や保護者から大いに学び、伝えるべきことはしっかりと伝え、磨き合う学校にしていきたい。
  - ☆学校と家庭、地域との連携を密にし、子どもたちのよりよい成長のために、家庭・地域とともに歩む学校作りに努める。地域のつながりが維持されていることが学校のセーフティネットにもつながる。学校も協力を惜しまず、支援もいただける“Win Win”の関係でいきたい。学校運営協議会の皆様のお力もいただきながら、家庭教育学級、授業参観後の懇談会の持ち方等を工夫し、家庭の教育力の向上も図りたい。地域にお世話になっ

ている体験活動も、事前・事後の指導で価値付けをしっかりと行いたい。

☆下野市で推進する小中一貫教育の趣旨を踏まえ、国分寺中学校区の目指す子ども像『学び合い高め合う子ども』『主体的に人や社会に関わる子ども』の具現化に努める。どうやって目指す子ども像を実現していくか、小中の教員が授業を見せ合ったり、情報交換を深めたりしていく。国分寺中学校区は、国分寺小と国分寺中は隣り合わせで、本校は離れているという違いがある中、音楽活動や清掃などの交流をどう深めるかも工夫していきたい。

☆校内の危機管理体制を確立し、一人一人の危機管理意識を高め、安心・安全な学校づくりに努める。実効性のある訓練・研修やマニュアル等の整備で、子供たちが安心して安全に過ごせるようにしていく。

### ③協議(一部抜粋)

#### ○小中一貫教育について

- ・小学校の交流とあるが、中学校との交流は行っているのは知っているが、小学校どうしの交流はどうか。あってもいいかと思うが。
- 昨年度は、国分寺小と国分寺西小が統合がスムーズに行くように、小小連携を実施してきた。小学校に中学生が来ると、小学生にとっては憧れる存在となる。国分寺中学校の生徒は、大変立派である。中学生は母校に行くとしっかりするという話を聞く。昨年度は国分寺小学校出身の中学生も本校に来ていたが、今年度は、母校に行くようにしようと中学校では考えているようである。行事の手伝いなども参加させてはどうかという意見もあるようである。
- ・1年から4年、5・6年・中1と示されおり、1つの学校で9年間を行うのか、保護者は不安や疑問があると思う。いろんなところで説明されているのか。学校を行ったり来たりするのに不安があるのではないか。
- いかに取組を広報していくか、市の教育委員会からもしっかりと行うように言われている。学校だよりやHPでは紹介しているが、しっかりと説明していかなければならないと考えている。
- ・正直、保護者としては、「じゃあ何するの」と筋が見えないと思っている人が多い。国分寺中学校区では、合唱があるのかなと思っている。中学生が学校に来て歌うことで手本となって活動している。あとは運動か。小学校にはメリットはあるが、中学校にとっては、小学校のために、授業をあまりさけないしメリットがあまりないようなイメージである。挨拶、合唱、部活...この当たりで筋が通るものができるとうい。
- たしかに中学校にはメリットは無いと思うかもしれない。しかし中学生が小学校に来ること、子供たちにとってはメリットがある。
- ・中学生が小学校に行って自分を発見できたり、先生に認められたりすることで安心したりする。認められる場面が多くあるとうい。小中学校での引き継ぎも、さらにしっかりと行うよう管理職がきちんと意識づけてほしい。
- ・南河内中学校区では、施設一体型の学校になっているのか。工事を行っているのか。
- 平成34年度開校の予定である。現在、工事の計画を検討しているところかと思う。
- ・小山の義務教育学校には、1年から9年生がいて、運動会など大変だと聞いている。職員室もたくさんの先生がいるとのことであった。
- 施設一体型の学校は、県内では現在、那須塩原市にある塩原小中学校だけである。以前その学校を見学したが、4年生と7年生が非常にリーダーシップを発揮しているという説明

を聞いた。特に中学校1年生である7年生は、中1ギャップがなくなりスムーズに進級しているとのことであった。しかし、本来小学校の最上級生である6年生が7年生がいるためリーダーとして伸びないとの話もあった。

#### ○学校経営方針の説明について

- ・校長から「それぞれの子がそれぞれの個性で輝く」という説明があったが、そういった言葉が経営方針のどこかに入っていると嬉しいのだが。
- 学校経営方針の1つ目に盛り込めればと思う。普段から「人と比べるのではなく、自分自身の伸びが大切」と子供たちには話している。他人と比べることも時には必要である。しかし、それだけにならないようにしていきたい。

#### ○月曜日課について

- ・学校概要に昨年度はなかった月曜日課が加わったがなぜか。
- 新学習指導要領に対応し、外国語活動など時数が増えた。そのため月曜日を6時間授業にしないと授業時数が確保できない状況である。6時間の日の子供たちの下校は16時頃になり職員の勤務時間は16時30分のため、放課後の時間も確保されない。また、5時間授業の水曜日しか会議をもつことができないと研修を実施する時間がない。そこで、月曜日課を設け、少し下校時刻を早めて、下校後に約1時間を確保した。それにより、研修や打合せをできるようにした。

#### ○特別支援学級の在籍について

- ・あおぞら学級とにじいろ学級の子供たちの在籍はどうなっているのか。
- 在籍は、あおぞら・にじいろ学級となっている。国語と算数のみ支援学級で行い、それ以外の教科は交流学級である1組または2組で行っている。給食は交流学級で食べている。今後も、一人一人の状況に合わせて必要に応じ教科や給食の対応を変更していく。

#### ○地域のイベントについて

- ・6月2日(日)にイベントを行う。その中で今年度は、宇都宮女子高校の書道パフォーマンスを行う。縦3m、横5mの和紙に書くのだが、書き終わったものをどこかに掲げられないかと考えている。ブルーシートの上に和紙を付けたものなので、ぜひ学校のどこか掲示してほしい。
- できる限り協力したい。検討する。

#### ○不登校児童について

- ・新年度を迎えて、不登校の児童はいるのか。
- 今のところ、病気欠席以外は、全員登校している。持続できるよう努めたい。
- 不登校については、全国的にゴールデンウィーク明けに多くなる傾向があることから連休前後の様子をよく見ていきたい。

#### ○平成31年度学校経営方針の承認

- ・貴重なご意見に感謝する。これまでの説明等を踏まえ、「学校経営方針」をご承認いただけるか。
- 一同承認
- ご承認に感謝する。本日いただいたご意見をもとに文言を一部修正しこの方針を進めていく。